

教授**ご活躍の足跡**
(2019年1月～12月)**植村 邦彦****著書**

- (1)『隠された奴隷制』集英社新書、7月刊。

論文

- (1)「贈与と分かち合い——グレーバー『負債論』をめぐって」『情況』第5期第2巻第1号、情況出版、pp. 156-165、1月刊。
 (2)「世界システム論とローザ」『思想』第1148号、岩波書店、pp. 23-27、12月刊。

資料・その他

- (1)社会思想史学会編『社会思想史事典』丸善出版、1月刊。「社会思想史の方法」pp. 14-21、「ユダヤ人問題」pp. 302-303、「ボナバルティズム」pp. 314-315、「マルクス」pp. 320-321、「赤旗」pp. 358-359、「イデオロギー」pp. 380-381。
 (2)「今、多くの人が陥る「奴隷労働」の構造と実態——私たちに「自由」はあるのだろうか」ウェブマガジン『現代ビジネス』講談社、11月5日掲載。

書評

- (1)イマニュエル・ウォーラーステイン／ランドル・コリンズ／マイケル・マン／ゲオルギ・デルルギアン／クレイグ・カルフーン著／若森章孝・若森文子訳『資本主義に未来はあるか——歴史社会学からのアプローチ』（唯学書房、2019年）『図書新聞』第3410号、図書新聞出版、p. 1、8月刊。

学会・研究会

- (1)「マルクスと〈シティズンシップ〉をめぐって」社会思想史学会第44回大会「マルクスとシティズンシップ」セッション、甲南大学、10月26日。
 (2)「〈コミュニズム〉の可能性」ルネサンス研究所・関西公開研究会、高槻市生涯学習センター、11月9日。

宇都宮 浄人**論文**

- (1)「LRT化を進めるハンガリー」『路面電車EX』第14号 pp. 98-106、11月刊。
 (2)「MaaSの時代」『JR経営情報』第375号、5月刊。
 (3)「LRTをめざすチェコ」『路面電車EX』第13号 pp. 106-114、5月刊。
 (4)「関西の鉄道を展望する—大阪万博とその先—」『鉄道ジャーナル』第630号 pp. 52-55、4月刊。
 (5)「オーストリアにおける地域鉄道の財政支援構造」『交通学研究』第62号 pp. 133-140、3月刊。
 (6)「交通とコミュニティーソーシャルキャピタルを育む地域公共交通」『こころの未来』第20号 pp. 32-25、1月刊。
 (7)「交通まちづくりと観光」『都市と交通』第113号 pp. 2-5、1月刊。

Working Paper・Discussion Paper

- (1)「地域鉄道の広義社会的効果—オーストリアにおける実証」『低炭素社会を目指した都市交通政策の体系的研究』、日交研シリーズ A-755、7月刊。

資料・その他

- (1)「アウトカムから考える時代に」『交通新聞』2019年5月1日。
 (2)「やさしい経済学・交通まちづくりと地域再生」『日本経済新聞』2019年3月6日～2019年3月19日。

翻 訳

- (1) オリヴァー・シュヴェーデス著、三上宏美監訳(共訳)『交通政策：ドイツにおける新しい潮流』、ミネルヴァ書房、10月刊。

学会・研究会

- (1) “The impact of regional railways on travel behaviour and social capital” The 16th International Conference on Competition and Ownership in Land Passenger Transport, Singapore, 25-30 August.
- (2) “Rail bonus: An empirical study onto relative valuation of railways” World Conference on Transport Research - WCTR 2019, Mumbai, 26-31 May.
- (3) 「オーストリアの地域公共交通～政策とその効果～」中京大学経済研究所セミナー、1月21日。

講演会

- (1) 「スマートシティと MaaS ～欧州の動向を踏まえて～」スマートシティフォーラム、播磨科学公園都市、12月8日。
- (2) 「地域公共交通の課題～ MaaS を見据えた制度をどう考えるか～」新交通システム推進議員連盟、参議院会館、11月28日。
- (3) 「地域公共交通政策を考える～欧州の動向を踏まえて～」地域経済経営ネットワーク研究センター 2019年度シンポジウム、北海道大学、10月10日。
- (4) 「交通まちづくりと地域再生～“MaaS”の時代を見据えて～」中央電気倶楽部講演会、中央電気倶楽部、10月1日。
- (5) 「交通まちづくりの戦略～ MaaS の時代を見据えて～」地域交通を考えるシリーズ、福井 AOSSA、6月2日。
- (6) 「MaaS時代の交通まちづくり～アウトカムから考える交通計画～」播磨100人会議、姫路市大手前ダイネン BLD、5月17日。
- (7) 「交通まちづくりの戦略～オーストリアの実例を踏まえて～」高岡 RACDA 総会、高岡市男女平等推進センター、4月21日。
- (8) 「地域公共交通の制度改革の方向～欧州から学べること学べないこと」地域公共交通の制度財源検討会、中央大学、3月22日。
- (9) 「新交通システムと MaaS ～欧州から何を学ぶか」新交通システム推進議員連盟、参議院会館、3月20日。
- (10) 「Quality of Life を高める公共交通とは－欧州の事例を踏まえて－」交通経済研究所研究報告会、中央大学、3月1日。
- (11) 「人口減少時代の地域公共交通政策：欧州の制度から学ぶ」行政経営フォーラム、慶応大学、2月24日。

片山 直也**Working Paper・Discussion Paper**

- (1) A New Test for Additive Outliers in Non-Stationary Processes using the Box-Cox Transformation, N.Katayama. Working Paper Series F-95, Economic Society of Kansai University, 2019.
- (2) A Model of Rational Bubbles with Additive Outliers, N.Katayama. Working Paper Series F-94, Economic Society of Kansai University, 2019.

北原 聡**論 文**

- (1) 「近代日本の電信電話に関する近年の研究動向—地域社会との関連を中心に—」『郵政博物館研

究紀要』第10号、通信文化協会、pp. 3-12、3月刊。

講演会

- (1)「戦間期の職業紹介事業と職業解説の集大成『日本職業大系』について」関西大学経済・政治研究所第232回産業セミナー、関西大学梅田キャンパス、6月21日。

北波 道子

論文

- (1)「農村最低生活保障制度からみる中国の社会と経済—重慶市豊都県 SR 鎮と SZ 鎮を例として—」関西大学『経済論集』第68巻4号 2019. 3、pp. 135-15。
- (2)「『西部大開発』から『一带一路』—中国西部地域の現状と将来」関西大学経済・政治研究所『セミナー年報 2018』2019. 3、pp. 93-100。

学会・研究会

- (1)“Land Ownership and Tax System in Japan”, Sino-Japan-Korea Symposium on Real Property Tax Systems, November 2nd, 2019, Central University of Finance and Economics, Beijing, China

神江 沙蘭

学会・研究会

- (1)“Japan’s Economic Dilemma and ‘Neoliberal’ Reforms,” *Society for the Advancement of Socio-Economics*、米国・ニューヨーク、6月27日～29日【研】
- (2)“Multilateral Cooperation for Financial Stability: A Historical Perspective and Prospect,” *Prospects for Japan’s G20 Osaka Summit*, The Centre for the Study of Global Japan, University of Toronto、カナダ・トロント、5月8日【招待講演】
- (3)“Germany and Japan: Great or Middle Powers in Global Banking Regulation?” *Nissan Seminar*, Nissan Institute, Oxford University、イギリス・オックスフォード、2月28日【研】

古賀 款久

論文

- (1)「研究開発税制における実効税率の推移：1990-2017年度」『関西大学経済論集』第69巻第2-3号、関西大学経済学会、12月刊。

後藤 健太

著書

- (1)『アジア経済とは何か—躍進のダイナミズムと日本の活路』（中公新書）中央公論新社、12月。

分担執筆

- (1)「SDGs とグローバル・バリューチェーン」『アジア太平洋と関西—関西経済白書〈2019〉』アジア太平洋研究所、pp. 75-78、9月。
- (2)“New Asian Dynamisms and Japan’s Development Strategy” *Kansai and the Asia Pacific: Economic Outlook 2018-2019*, Osaka: Asia Pacific Institute of Research, pp. 45-55, 4月。

論文

- (1)「グローバル化時代におけるベトナムの労働事情と今後の課題」『労働調査』労働調査協議会、pp. 9-13、5月。

学会・研究会

- (1)11月25日、「SDGs 実装化戦略～ILO プロジェクトを事例に～」アジアビジネスにおけるSDGs 実装化に向けて・APIR・ILO 共催シンポジウム。（大阪）

- (2) 11月12日、「グローバル・サプライチェーンにおける責任ある労働慣行と持続可能な事業の両立を目指して」国際労働機関・電子情報技術産業協会（JEITA）共催シンポジウム。（東京）
- (3) 9月18日、第3回東京2020（オリンピック・パラリンピック組織委員会）－ILO サステナビリティ・フォーラム「任あるビジネス慣行（労働CSR）と生産性」@国連大学本部。（東京）
- (4) 5月12日、日本青年会議所近畿地区 和歌山ブロック協議会那賀大会記念事業 SDGs トークセッション・パネル。（和歌山）

講演会

- (1) 6月14日、政策研究院「『競争するアジア、共生するアジア』政策研究大学院大学。（東京）

佐々木保幸

分担執筆

- (1) 「カルフルー：ハイパーマーケットと巨大流通企業グループの創設」佐々木保幸・鳥羽達郎編著『欧米小売企業の国際展開—その革新性を検証する』第2章、中央経済社、pp. 23-37、2019年11月刊。
- (2) 「アマゾンにみる流通分野の新展開と『反アマゾン法』」小栗崇資・夏目啓二編著『多国籍企業・グローバル企業と日本経済』新日本出版社、2019年10月、pp. 98-107。

論文

- (1) フランスにおける社会的連帯経済とコメルス・アソシエ（協同商業）『中小商工業研究』第141号、pp. 4-9、10月刊。

学会・研究会

- (1) 「わが国ボランタリーチェーンの現状と課題」日本流通学会第33回全国大会、明治大学、2019年10月20日。

佐藤 方宣

資料・その他

- (1) 「幸運と不運の偏在（にっぽん診断）」『経済ウィークリー（地方紙向け配信コラム）』共同通信、1月。
- (2) 「一律の自粛と信頼の醸成（にっぽん診断）」『経済ウィークリー（地方紙向け配信コラム）』共同通信、3月。
- (3) 「公助と自助の二分法（にっぽん診断）」『経済ウィークリー（地方紙向け配信コラム）』共同通信、5月。
- (4) 「就労支援と公的負担（にっぽん診断）」『経済ウィークリー（地方紙向け配信コラム）』共同通信、8月。
- (5) 「株主第一主義の再考（にっぽん診断）」『経済ウィークリー（地方紙向け配信コラム）』共同通信、9月。
- (6) 「私生活は売り物になるか（にっぽん診断）」『経済ウィークリー（地方紙向け配信コラム）』共同通信、11月。

学会・研究会

- (1) 指定討論者：南森茂太「神田孝平の地方財政論」明治期の経済思想をめぐる研究会、大阪経済大学、2月18日。
- (2) 司会（久米暁氏と共同）：「シンポジウム＜ケインズ・ウィトゲンシュタイン・ハイエク—不確実性の時代の秘められた知的連関＞」イギリス哲学会第43回研究大会、広島国際大学、3月30日。
- (3) 研究報告「方法への懐疑と日本での議論」第37回経済学方法論フォーラム、小樽商科大学札幌サテライト、9月4日。

- (4) 指定討論者：「合評会：只腰親和・佐々木憲介編著『経済学方法論の多元性：歴史的視点から』蒼天社出版、2018年」近代経済学史研究会、大阪経済大学、12月22日。

佐藤 雅代

講演会

- (1) 「Japanese Social Security System — 公的健康保険制度への税の投入による社会的公正の実現 —」(Session 3: Social Security)、2019 China's Public Finance Forum、北京大学中国公共財政研究中心、北京大学斯坦福中心 李兆基大堂、12月14日。

新熊 隆嘉

分担執筆

- (1) 「資源の呪い—理論と現実」細田衛士・大沼あゆ編著『環境経済学の政策デザイン』第7章、慶應義塾大学出版会、pp. 157-182。

論文

- (1) Arimura, T. H., Kaneko, S., Managi, S., Shinkuma, T., Yamamoto, M., & Yoshida, Y. (2019). Political economy of voluntary approaches: A lesson from environmental policies in Japan. *Economic Analysis and Policy*, 64, pp. 41-53.

研究ノート

- (1) 「アフリカ資源国の苦悩—石油がナイジェリアにもたらしたもの—」『アフリカの経済発展と環境保全 (II)』研究双書第166冊、関西大学経済・政治研究所、近刊予定。

講演会

- (1) 「資源循環社会に向けた世界・日本の現状と今後について」第23回環境文化講演会、公益社団法人環境生活文化機構、航空会館、6月25日。

鈴木 智也

論文

- (1) "Counterfactual Inflation Targeting in Nepal", *South Asian Journal of Macroeconomics and Public Finance* (Sage), Volume 8, Issue 2, pp. 97-117.
- (2) "Civil War, Migration and the Effect on Business Cycles: The Case of Sri Lanka", *Defence and Peace Economics* (Taylor & Francis), Volume 30, Issue 7, pp. 783-798.

学会・研究会

- (1) "Destination Choice of Asylum Seekers in Europe from Conflict-Affected Countries", Eastern Economic Association, New York, the U.S.A., March 2.
- (2) "Destination Choice of Asylum Seekers in Europe from Conflict-Affected Countries", Canadian Economic Association, Banff, Canada, May 31.
- (3) "Are Asylum Seekers from Conflict-Affected Countries to Europe Economic Migrants?", British Society for Population Studies, Cardiff, Wales, September 9.
- (4) "Why Do Asylum Seekers Come to Europe from Conflict-Affected Countries?", 日本経済政策学会、中央大学、11月16日。

竹下 公視

Working Paper・Discussion Paper

- (1) 「現代中国と伝統中国—周期的王朝交替の歴史から考える—」『Working Paper SeriesJ-52』、Economic Society of Kansai University、2019年8月20日。

学会・研究会

- (1)「王朝交替のメカニズムと現代中国」関西大学経済学会第35回夏期研究大会、2019年7月17日。
- (2)「現代中国と伝統中国一周期の王朝交替の歴史から考える」経済社会学会第55回全国大会、2019年9月8日。
- (3)「金&劉共著訳 超安定システム 試案」(財)アジア・ユーラシア総合研究所（2019年度秋季内外客員研究員研究大会）、2019年10月6日。

谷田 則幸**論文**

- (1)李詩雨・谷田則幸「クチコミサイトを用いた効率的販売促進のための考察 ～多重ネットワークによるABSモデリングを用いて～」関西大学インフォメーションテクノロジーセンター年報、No. 9、関西大学インフォメーションテクノロジーセンター (co-authored)、pp. 3-24。

学会・研究会

- (1)“The agent-based modeling for children’s network and the validation for the long-term state of social exclusion”, Workshop on Economic Science with Heterogeneous Interacting Agents (WEHIA2019), City University of London, 26 Jun 2019. (co-authored)

中川 竜一**論文**

- (1)「Equilibrium Indeterminacy under Forward-Looking Interest Rate Rules」『Kansai University Review of Economics』No. 21、2019年3月、pp. 1-10。

Working Paper/Discussion Paper

- (1)「Stability of Sunspot Equilibria under Adaptive Learning with Imperfect Information」『RISS Discussion Paper Series』No. 79、2019年11月。(McGough, B. との共著)

学会・研究会

- (1)「Stability of Sunspot Equilibria under Adaptive Learning with Imperfect Information」(McGough, B. との共著) North American Summer Meeting of the Econometric Society、Seattle、2019年6月27日。

中澤 信彦**研究ノート**

- (1)「バーク経済思想研究の最前線—「バークとスミス」はどのように論じられてきたのか」『経済学史研究』第60巻第2号、経済学史学会、pp. 102-105、1月刊。(単著)
- (2)「サウジーのマルサス批判—「貧民の敵」マルサス像の起点を探る」『マルサス学会年報』第28号、マルサス学会、pp. 127-141、3月刊。(王量亮氏との共著)

翻訳

- (1)ロバート・サウジー著、中澤信彦・王量亮訳「書評「マルサス『人口論』」『マルサス学会年報』第28号、マルサス学会、pp. 143-171、3月刊。

学会・研究会

- (1)研究報告：“As One of the Swinish Multitude”: A Note on Malthus’s Casual Reference to Burke’s *Reflections*”, The International Workshop on Classical Monetary Theory 2019, Rikkyo University, 15 March. (単著)
- (2)研究報告：「バーク美学思想の経済思想史的含意について」経済学史学会第83回全国大会、福岡大学、6月1日。(単著)
- (3)研究報告：「バーク美学思想の政治・経済思想的含意について」日本18世紀学会第41回全国大

- 会、中部大学、6月9日。(単著)
- (4) 研究報告：「インターネット・AI時代を生きる大学生のための経済学史・思想史教育とは？— 関西大学・沖縄国際大学・小樽商科大学での講義経験からの考察」経済学史学会第176回関西部会例会、同志社大学、7月13日。(単著)
- (5) 研究報告：「研究動向の整理(3)：マルサスを中心として」共同研究「植民地インドをめぐる思想史」(仮)第1回(予備)研究会、関西大学東京センター、8月30日。(単著)
- (6) 指定討論者：Victor Bianchini, “On Malthus’s Principle of Population: The Two Faces of James Mill”, Kyoto Conference 2019 on James Mill and John Stuart Mill, Doshisha University, 11 September.
- (7) 研究報告：“‘As One of the Swinish Multitude’: A Note on Malthus’s Allusion to Burke’s *Reflections*”, 32nd Conference of the History of Economic Thought Society of Australia (HETSA), The University of Sydney, 4 October. (単著)
- (8) 研究報告：「バーク美学思想の社会・経済思想的含意について—人間本性・共感・習俗」社会思想史学会第44回全国大会、甲南大学、10月26日。(単著)
- (9) 研究報告：「エドモンド・バークのスミス『道徳感情論』書評をめぐって」アダム・スミスの会第202回例会、京都大学芝蘭会館、11月16日。(単著)

橋本 恭之

論文

- (1)「ふるさと納税制度と国・地方の財政」『関西大学経済論集』第69巻第1号、pp. 1-23、6月刊。

講演会

- (1)「ふるさと納税制度の現状と課題」生涯学習吹田市民大学、関西大学千里山キャンパス、7月3日。

橋本 紀子

研究ノート

- (1)「エビデンスを視る力—層別の重要性—」関西大学『経済論集』第69巻第2, 3号、関西大学経済学会、pp. 69-91、12月刊。

林 宏昭

著書

- (1)『日本の税制と財政』中央経済社 3月刊。

論文

- (1)「租税原則と消費税」『租税研究』第837号(日本租税研究協会) pp. 159-170、7月刊。

論評

- (1)「これからの地方分権論」『地方財政』第58巻第12号、pp. 4-11、12月刊。

ペドロ・ラボウズ

著書

- (1) “Small farmers: The missing link in the ProSAVANA Triangle”, *New Asian Approaches to Africa: Rivalries and Collaborations*, chapter 8, Takuo Iwata (ed), Delaware, USA: Vernon Press, 2019, pp. 181-210.

学会・研究会(単独)

- (1) “Is South-South cooperation important for Mozambican Agriculture? The case of ProSavana” 日本アフリカ学会第56回学術大会、京都精華大学、2019年5月18-19日。

学会・研究会（共同）

- (1) “The connectivity approach of China and Japan in East Africa” *11th International Convention of Asia Scholars (ICAS)*, Leiden University, Holland, 2019年7月16-19日。

学会・研究会（セッションの議長）

- (1) “Rethinking African Development” *2nd Japan Society for Afrasia Studies (JSAS) Conference*, 東京大学、2019年7月27日。
- (2) “Africa in Global Geopolitics” *2nd Japan Society for Afrasian Studies (JSAS) Conference*, 東京大学、2019年7月27日。

受賞・表彰

- (1) Grant, Co-Funding to organize an International Symposium on the Belt and Road Initiative at Kansai University, German Friedrich Ebert Stiftung Foundation (FES) Japan Office, 2019年10月7日。

准教授

ご活躍の足跡
(2019年1月～12月)

岡田 啓介

Working Paper・Discussion Paper

- (1) Oil bonanza and the composition of government expenditure. (with Sovannroeun Samreth)
MPRA Paper No. 96657, 10月刊。

学会・研究会

- (1) Oil bonanza and the composition of government expenditure. 琉球大学コンファレンス：マクロ経済動学の理論・実証分析、琉球大学、11月2日。

柏原 宏紀

書評

- (1) 小幡圭祐著『井上馨と明治国家建設』（吉川弘文館、2018年）『日本史研究』第681号、日本史研究会、pp. 69-76、5月刊。

学会・研究会

- (1) 「内閣制度前史としての参議省卿兼任制の成立」関西大学法学会政治学研究会、関西大学千里山キャンパス、11月30日。

講演会

- (1) 「草創期時事新報の「政治家」論」福澤研究センター講座、慶應大阪シティキャンパス、2月16日。
(2) 「内閣制度源流としての参議・省卿兼任制の形成」関西大学経済・政治研究所産業セミナー第235回、関西大学梅田キャンパス、9月30日。

北川 亘太

分担執筆

- (1) “Resolving the Cultural Conflict between Traditional Training and the ‘Nontraditional World’ in Japan,” Damir Matanović and Arata Uemura eds. *Education and Training as Basis for Future Employment*, University of Osijek; University of Wakayama: Osijek; Wakayama, pp. 121-132, September.

論文

- (1) 「社会的貨幣とモラル的論理」『情況』2019年冬号、情況出版、pp. 144-149、1月刊。
(2) “Advancing dialogue in service-dominant logic: Collective reframing supported by framed arrangement” 『経済論集』第68巻第4号、関西大学経済学会、pp. 157-182、3月刊 (co-authored with Ryo Izawa)。
(3) 「主体の変容を価値づける装置」『季刊経済研究』第39巻第1・2号、大阪市立大学経済研究会、pp. 33-53、3月刊。

Working Paper・Discussion Paper

- (1) Formative Process of J.R. Commons’ Income Approach to Price Movement, Economic Society of Kansai University Working Paper Series, F-92, 3月刊。

資料・その他

- (1) 「価値づけと遂行性——制度経済学のプラグマティックな展開」（序文）『季刊経済研究』第39巻第1・2号、大阪市立大学経済研究会、pp. 1-3、3月刊（立見淳哉・山本泰三・須田文明との共著）。

翻 訳

- (1) ジョン・ロジャーズ・コモンス、宇仁宏幸・坂口明義・高橋真悟・北川亘太共訳『制度経済学——政治経済学におけるその位置 中巻』ナカニシヤ出版、1月刊。
- (2) ジョン・ロジャーズ・コモンス、宇仁宏幸・北川亘太共訳『制度経済学——政治経済学におけるその位置 下巻』ナカニシヤ出版、1月刊。
- (3) ローラン・テヴノー著、須田文明・北川亘太共訳「形態への投資 [上]」『総合政策』第20巻、岩手県立大学総合政策学会、pp. 137-160、3月刊。

学会・研究会

- (1) “Formative Process of J.R. Commons’ Income Approach to Falling Prices,” JAFEE-AFEE Joint Session, 第23回進化経済学会名古屋大会, 名古屋工業大学, 3月16日。
- (2) 「A. ネグリにおける価値と労働——認知資本主義における価値論のための予備的考察」進化経済学会「制度と統治」研究部会、京都大学、5月11日（山本泰三との共同報告）。
- (3) “Valuation Devices of Beneficiary Transformation Services,” *AFEP-IIPPE Conference*, Sciences Po Lille, Lille, 3rd July.
- (4) “Traditional and SNS Valuations in the Japanese Confectionery Wagashi,” *International Conference: Technological Changes and Society*, 和歌山大学, 9th September (Mihoko Morisaki との共同報告)。
- (5) “Valuation Devices of Beneficiary Transformation Services,” *The EGOS and Organization Studies Workshop*, 京都大学, 13-15th December.

講演会

- (1) 「アメリカにおける産業委員会の形成と普及——制度経済学者 J.R. コモンスの視点から」関西大学経済・政治研究所第235回産業セミナー、関西大学梅田キャンパス、9月30日。

座主 祥伸**学会・研究会**

- (1) 「担保登録と外部ファイナンス」法と経済学会、駒澤大学、7月14日。

溝端 泰和**Working Paper・Discussion Paper**

- (1) 「Factor adjustments and liquidity management: Evidence from Japan’s two lost decades」, 『早稲田コーポレートガバナンス研究ワーキングペーパーシリーズ』、早稲田大学高等研究所、2019年12月、(co-authored) Hiroshi Teruyama。

学会・研究会

- (1) 「企業統治・企業金融・企業の生産性の関係について——サーベイを中心に——」京都大学経済研究所プロジェクト研究会、京都大学、1月13日。
- (2) 「正規・非正規労働者間の労働フロー分析」先端経済分析研究会、キャンパスプラザ京都、8月27日。

吉野 裕介**Working Paper・Discussion Paper**

- (1) 「ハイエクの慣習論：J.S. ミルに対する評価の変遷から」『関西大学経済学会 Working Paper Series』、J-50 pp. 1-16、関西大学経済学部、2019年7月刊。

研究ノート

- (1) 知の巨人シリーズ「ハイエク」『a シノドス』、Vol.269、ch.6、2019年11月。

学会・研究会

- (1)「ハイエクの慣習論：J.S. ミルに対する評価の変遷から」、関西大学経済学会 第35回夏期研究大会、関西大学、2019年7月17日。

助 教**ご活躍の足跡**
(2019年1月～12月)**岸 慶一**
論 文

- (1) Keiichi Kishi “Technology diffusion, innovation size, and patent policy” 『European Economic Review』, Volume 118, Elsevier, pp. 382-410, September.

小嶋 健太**Working Paper・Discussion Paper**

- (1) 小嶋健太・森谷文利「裁判所ポストの定量的評価：ランクとジョブバリューの観点から」 Kobe City University of Foreign Studies Working Paper Series, No.58, pp. 1-31, 2019年3月。
 (2) Kojima, Kenta and Katsuya Takii, “Successful and Dead-end Jobs in a Bureaucracy: Evidence from Japan,” OSIPP Discussion Paper, DP-2019-E-008, pp. 1-46, 2019年8月。

学会・研究会

- (1) “Judicial Independence in Japanese Courts” (with Fumitoshi Moriya) 契約理論研究会、立命館大学、2月16日。
 (2) “Judicial Independence in Japanese Courts” (with Fumitoshi Moriya) 契約理論研究会夏季集中研究会、弘前大学、8月12日。
 (3) 「地域内の人材配置と労働市場」地域活性化の経済分析ワークショップ、東北公益文科大学、9月7日。
 (4) “Judicial Independence in Japanese Courts” (with Fumitoshi Moriya) 名古屋市立大学経済学研究科火曜研究会、名古屋市立大学、12月4日。